

文部科学省

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）指定校



宮崎県立飯野高等学校 令和2年度 実践報告書

目次

2年目の事業を終えて～コロナ禍から見えたカリキュラム開発の在り方～	1
1 ～ 3 研究概要	2
4 コンソーシアムによる実践	3
5 カリキュラム開発	8
6 えびの学	9
7 地域貢献活動	12
8 地域探究活動	21
9 地域支援活動	40
10 課外活動への波及	55
11 教科と総合探究	55
12 次年度以降の課題及び改善点	57
13 生徒の意識変化	57
14 成果の普及方法・実績について	59

2年目の事業を終えて～コロナ禍から見たカリキュラム開発の在り方～

2020年度はコロナ休校からのスタートであった。その中で強く感じたのが、日常の学習活動から社会と接続していることの重要性である。これまでもそうだが、地域と協働する探究活動を進める上で必要となるのが、いかにして地域のリソースを活用するかが課題である。例えば、市役所などの公的機関はすぐに連携の対象となりうるが、専門的な分野となれば別の機関や企業など専門職が所属する団体の方がよい。これについては、教師が開拓していくことはもちろん、自分事として探究を進めていく上でも生徒自身が広げていくことも認めていくと学校として地域とのつながりがより広がっていく。また、教師が多様な人材と生徒をつないでいくことも重要である。地域をはじめ各教科の専門領域から1人ずつ協力者をつくることができれば、それだけでも豊富なリソースが学校に集まってくることになる。そうなれば、子どもたちの学びの機会は増えより深いものになっていく。つまり、社会に開かれた教育課程を実現するためには生徒・職員ともに学校の枠を超えて越境することが重要である。

本校では、これまですすめてきた飯野高校の探究を核とした教育活動が学校の特色となっている。卒業生への意識調査でも「自分の進路に活かせたか」という問いに、すべての生徒（とても役立った79%、役立った21%）が肯定的にとらえている。「どのような力が向上したか」という問いについても生徒たちが様々な力を身につけたことを実感していることが分かっている。さらに、この数年は校外で成果発表する機会が増えており東京などで開催される全国規模の大会、県内大会で顕著な成績を修めている。

1年目を終えた時点で探究プログラムがすでに定着していたこともあり、主体的に活動する生徒が多くコロナ禍においても大いに活かされた。特に、休校中のICTの活用は探究と絡めて4年前から遠隔交流を進めてきたこともあり、生徒たちが積極的にオンラインを活用していた。おかげで休校中も職員のオンライン授業や探究のプロジェクトが円滑に進んでいった。このことは、校内だけでなく学校全体の魅力の一つになっており地域からも高い評価を得ている。学校のミッションが何かを考え、担当者だけでなく学校全体で取り組み続けてきたことで、県内外で注目を集めるようになった。高校までに教科“探究”を経験していない教師にとって1から創り上げていくことは容易ではないが、新たな時代に必要な人材の育成が必要であるという視点と、子どもたちと共に学ぶ、創るという視座をもって取り組めば、「総合的な探究の時間」を柱とした学校オリジナルの新しい学び（主体的、対話的で深い学び）につながる教育課程ができるのではないだろうか。

教師が自ら主体的、対話的で深い学びを実践していくことで「総合的な探究の時間」におけるカリキュラム・マネジメントが進んでいくのである。

コロナ禍により今年度の活動が危惧されたが事業指定を受け2年目の実践は、昨年度までの取り組みが生き休校中から生徒主体の実践が見られた。これは、実践を通じた生きた学びから得られたものではないかと手ごたえを感じている。3年生では30以上の地域におけるプロジェクトが展開された。コンソーシアムとの協働も2年目に入って深まってきたことや地域と高校の結びつきがこれまで以上に強まったことが大きい。その成果を報告するグローバル学習成果発表会では、オンラインながら外部から100名以上の参加があり新たな形での挑戦をすることができた。また、本年度の県内への就職状況は86%（目標値80%）と設定目標を超え過去10年で最高となるなど事業の成果も出始めている。

最終年度となる令和3年度は成果につなげることはもちろんであるが、当初からの目的である持続可能な取り組みとなるよう取り組んでいきたいと思う。

1 研究開発名

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

2 研究開発概要

本校では、地域課題に関心がある生徒も多く、地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になっている。本校のある宮崎県えびの市でも社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、これまでの「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーローの育成するための3年間を見通した地域課題解決学習のカリキュラムを開発を行う。開発・実践に当たっては地域の団体などと連携して、人材育成により地域創生の核となる高校を目指す。

3 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

魅力化コアチーム委員会	地域の事業者と教員で構成される。カリキュラム内容に関する提言や探究の伴走の在り方、まなびの場づくりについて協議、対話を行う。
学科・コース会議	学科・コースごとに担任・副担任が構成員となり研究プログラムに基づく実践を行うための連絡会議である。
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議 →各科目で実践

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

事務局（進路指導部）に所属する教師が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する教師が地域のコアチーム構成員とカリキュラム開発を行う。また、学科・コース会議には、すべての教師が学科・コースごとに所属し、実践する上での学習内容や指導法を共有する。また、これらの活動を支援するため、事務局に地域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行う。

③定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進路指導部を事務局として地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを中心に担う組織としている。教師と地域協働学習実施支援員で構成する。魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

魅力化コアチーム委員会の実施 (全5回)	・高校生プロジェクトの在り方・高校生の活動支援 ・人材の還流につながるプロジェクト型学習・高校生との対話 ・グローバル・リーダーとは・カリキュラム開発専門家による研修会
-------------------------	--

4 コンソーシアムによる実践/管理機関の取組・支援実績

①コンソーシアムの構成団体

【飯野高校魅力化の会】

えびの市、えびの市議会、飯野高校同窓会、えびの市教育委員会、えびの市自治会連合会、えびの市農業協同組合、えびの市商工会、えびの市観光協会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市子ども育成連絡協議会、えびの市体育協会、えびの市社会福祉協議会、えびの市民生委員児童委員協議会、えびの市教育・保育施設園長会、えびの市青少年育成市民会議、えびの市高齢者クラブ連合会、飯野高等学校PTA、えびの市中学校校長会、宮崎県議会、えびの市PTA連絡協議会、宮崎県立飯野高等学校

【魅力化コアチーム委員会】

大正大学、宮崎大学、飯野高校、VoiceGift Lilybell、えびの市青年会議所、明石酒造株式会社、NPO法人ニシモロベース、えびの市地域おこし協力隊、えびの市企画課、HANNAH、(株)BEBUYA、(有)東康夫養鶏場

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年7月20日(全体会) 飯野高校魅力化の会	今年度事業計画 高校からの現況報告 事業実施に向けての意見交換会
令和2年6月24日(第1回) 魅力化コアチーム委員会	第1回は、今年度の事業説明を行い、その後フリーの対話で様々な視点での話が委員から出された。概要は以下の通りで第2回以降の協議テーマとして考えていくことが確認された。 ①コロナ禍だが、地方の時代が来るのではないか ②大人も地域に対して何が出来るか考える機会が必要(但し郷土愛は強制されるものではない) ③地元の企業に対して学ぶ機会。高校生と一緒に共学する機会をつくる。 ④大人が学ぶ機会が必要で大人たちがよく知ることが大切 ⑤企業とのコラボ(生徒たちが募集をかけて企業からの手上げ式もいい) 若くしてそのような意識が醸成されると将来、地域のチカラになるのではないか、そのために地場の企業を巻き込んで高校生をみせることが必要である。地元こそ外を見ていない(先を観ずに今だけを見ている)ので、高校生がきっかけとなり学ぶ機会が必要である。高校生が自分が培ったものを持ち帰ってえびの で何かしたい、ワクワクをつくりたいと思えるような地域像、大人像をつくるべきである。 上級生から下級生へのプロジェクトの継承が行われるようにな

	<p>ってきている。これは非常にいい方向だが、一方で引き継ぐだけで、過程を飛び越えてしまい表面だけを引き継いでいるケースも見られる。本当に自分がしたいことなのか見極めも大切である。今、探究的な学びは全国で増えているがこれを未来しごとづくりにつなげていくことも大事ではないか。就職という選択肢だけでなく仕事を創るという意識の醸成も探究の発展形の一つとしてであると面白い。コロナ禍でリモートワークが都市部では進んでいる。都市と変わらない仕事ができる、リスクヘッジとして地方にオフィスを構えていたほうがよいということもある。アントレプレナーシップ教育を考えていく必要がある。</p>
<p>令和2年7月27日(第2回) 魅力化コアチーム委員会</p>	<p>地域をフィールドに生徒たちが持続可能な活動を展開していく上で、大人も共に学ぶ地域ラボのような環境づくりが必要である。国も地域で新たな価値を創ることに力をいれるようであり、これからは都市と地域の両方の良さを活かして働く、楽しむスタイルの開拓が必要なのではないかと考える。つまり、生徒たちのプロジェクト型の活動も事業者と一緒に活動に行えるものを増やし、SDGs も考えながら展開できるとよい。また、飯野高生はボランティアに積極的でこの点は地域からの評価も得ている。ただ、これは自分のためになる一方で将来、地域に根付いた仕事とはならない。飯野高校でグローバル・リーダーになったような子が帰ってこれる仕組みづくりが重要である。以下、その他の意見。</p> <p>①高校生プロジェクトの活動自体は素晴らしい。ボランティアを超えて、経済についても学ぶべきではないか。起業実践など。次のステージへ行くべきではないか。</p> <p>②高校生の伴走をすることは率先してやるが、自らの取組みについて事前の説明が圧倒的に不足している。→高校生側が説明も必要(なぜ、これをやるのか。しっかり企画書等をつくるワークをするべきである)</p> <p>③成功体験をさせる必要はあると思うのでラボを使って地域側にも受け入れ態勢をつくるべきである。</p> <p>④新しい仕事を創るという意識の醸成→仕事を創ることもできるのだという認識</p> <p>⑤地域に仲間となる存在をつくることも必要である。</p>
<p>第3回魅力化コアチーム委員会 9月16日(水)</p>	<p>第3回は、生徒たちが取り組んでいることを知りたいという委員の要望で生徒との対話の時間を設けた。この日は、県のゆたかさ指標について探究の授業を実施した経緯もあり生徒たちが</p>

	どのような視点でプロジェクト型学習をすすめているのか、支援できることは何かを考える機会となった。委員の一人は、「個別に支援することはあっても、関わっていない生徒たちがどのようなことを考えているのかを知れたのでよかった。高校生が未来について考えていることが印象的だった」と述べていた。
第4回魅力化コアチーム委員会 12月4日(金)	第4回はカリキュラム開発専門家(山中氏)から委員に高校生を伴走する上でのレクチャーがあった。地域探究においてフューチャーセッションを入れたワークの実践について紹介があり、この日に実際、取り組んだ様子が報告された。活動を進めていく上で、課題解決という視点だけでなく未来志向で考えることをカリキュラム内に盛り込むことも重要であるという助言があった。また、委員からは探究を進める上での以下のような意見、紹介もされた。 ①課題の見つけ方 → 振り返りワーク → 実習 → 特定と人と深く関係性をつくる(本音をいえる関係性、実習先の人との対話) ②話を深く聞くワークが必要(データ収集や理論だけでなく)
第5回魅力化コアチーム委員会 1月27日(水)	令和2年度の実践報告

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザー

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	山中 昌幸	大正大学 大学教員	
活動日程	活動内容		
6月24日(水) 7月27日(月) 9月16日(水) 12月4日(金) 1月27日(水)	<p>魅力化コアチーム委員会(全5回)</p> <p>各委員の意見をふまえ、県外等での事例や実績等についての紹介や解説、本校における活動の発展性など協議での先導的な役割を果たした。以下は、カリキュラム開発専門家による助言および提供されたテーマ。</p> <p>第1回</p> <p>①コロナ禍だからこそ地方の時代 ②大人も地域に対して何ができるか考える機会が必要 ③共学共創の場をつくる</p> <p>第2回</p> <p>①成功体験をさせるためラボを使って地域側の受入態勢整備 ②仕事を創る意識の醸成→創ることもできるという認識</p> <p>第4回</p>		

	生徒の伴走の在り方について ①課題のを見つけ方 → 振り返りワーク → 実習 → 特定と人と深く関係性をつくる（本音をいえる関係性） ②話を深く聞くワークが必要（データ収集や理論でなく）
6月24日（水）	カリキュラムに関する指導助言 授業見学、テーマ設定のワーク実践
8月1日～18日	オンライン面談（アイデア出しと視野を広げるための支援）
9月23日（水） 30日（水）	ポジティブアプローチ、キャリアやテーマの考え方を理解する指導法について
11月 2～3日	地域のパートナーとのプラン作りについて
12月 4日（水）	個人のキャリア開発について
1月11日（水）	地域リサーチの取り組み方について
1月18日（水）	各企画のブラッシュアップについて
1月25日（水）	各企画の先行事例研究について

④地域協働学習実施支援員について

分類	氏名	所属・職	雇用形態
地域協働学習実施支援員	遠目塚 文美	VoiceGift Lilybell 代表	
日程	内容		
生徒・職員の要請時	活動のサポート、コーディネート		
6月24日（水）	魅力化コアチーム委員会（全5回）		
7月27日（月）	学校と地域をつなぐ日常的なサポートについての報告		
9月16日（水）	・地域における活動実践報告		
12月 4日（金）	・教職員への情報提供、関係者、団体とのコーディネート		
1月27日（水）	・生徒の活動のサポート		
4月 1日（水）	子育て支援プロジェクト市長表敬訪問		
5月 9日（土）	ICT活用に関する調査に係る協議		
6月 3日（水）	海外輸出を展開する畜産業との協議		
7月10日（金）	生徒プロジェクトの協議		
7月13日（月）	人吉災害支援プロジェクトの協議		
7月15日（水）	人吉災害支援プロジェクトの実践サポート		
7月29日（水）	「地域人パンフレット」プロジェクト インタビュー対応		
7月31日（金）	生徒プロジェクトの実践サポート		
10月 6日（火）	静岡県立榛原高校との意見交換		
10月 7日（水）	第15回マニフェスト大賞 応募サポート		
11月18日（水）	島根県立津和野高校との意見交換		
12月25日（金）	県外の高校、自治体と本校の取り組みについて意見交換		

⑤運営指導委員会について

氏名	所属・職	備考
津曲 洋一	えびの電子工業株式会社 代表取締役社長	
明石 秀人	明石酒造株式会社 代表取締役社長	
矢野 健二	宮崎国際大学 地域連携センター長・大学部長	
福永 栄子	株式会社アイロード 代表取締役社長	
石坂 乃里子	えびの里山の会 会長	
活動日程	活動内容	
10月12日(月)	<p>第1回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現況報告 コロナ禍で取り組んでいる探究活動等 ・各委員より <p>えびの電子工業株式会社 津曲委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案型や子育て支援など地域に必要な人との関係づくりが今後必要 <p>明石酒造株式会社 明石社長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みが全国で発信されている。生徒たちが工場研修などで地元企業を知っていただくことが大事 <p>宮崎国際大学 矢野 大学部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校をどう存続させるか 学校がどんなことをしているか注視している <p>(株)アイロード 福永社長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の本当の宝を次世代につないでいくこと、SDGs などを通して小さな価値に気づくことが大事 <p>里山の会 石坂会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話型ワークショップや未来カフェの実践、市民のITに対する意識向上もふくめて生徒たちの活動で成り立っている。 <p>また、以下のような意見も出されその後の取組みに活かしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように何を学んできたかが大切 ・探究の成果を英語で表現する機会をつくとよい ・一番変わるべきなのは教員なのでは？ ・偏差値(スポンジヘッド)の知識偏重では評価できない ・探究を通して人を思いやる 協働 社会性 仲間を考える ・コミュニケーション能力 ・英語能力の向上 ・今までの授業を見直す好機 ・評価は役割ごとに行った方がよい (評価をリードする生徒、サポートする生徒という視点) ・学内での賞を増やしていくとよいのではないか 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな経験を積んでいる生徒は強い ・いろいろな経験を教員がどれだけ仕掛けられるか大事 ・子供たちのキャリア形成のために何が必要かを教員が語る ・地域との関係を失わずにやっていってほしい
2月予定	第2回運営指導委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の総括 ・令和3年度へ向けて

5 カリキュラム開発

①実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【1】①②④⑧ 地域学のカリ キュラム開発			ｺｰﾁﾝｸﾞ 懇話	指導 助言	ｺｰﾁﾝｸﾞ 懇話	研修会	ｺｰﾁﾝｸﾞ 懇話			ｺｰﾁﾝｸﾞ 懇話	指導 助言	研究会
【1】③⑦ カリキュラム マネジメントの研究				研究 授業		研修会		研究 授業				研究会
⑤ <u>グローバル学習</u> <u>成果発表会 2020</u>						企画		準備			開催	
⑥ 全国グローバル リーダーズ summit						企画		準備			開催	
⑦⑨⑩⑪ 視察研修					SR サミット						マイプロ サミット	県外校視 察
【2】 【3】 起業家 共同プロジェクトの実践												

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

各学科・コースに以下の学校設定科目をカリキュラム化している。

学科 コース	1年生	2・3年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目名	えびの学 週1単位	地域貢献活動 週2単位	地域探究活動 週1～2単位	地域支援活動 週4単位

③研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本年度は、休校等により計画していた内容・実践を見直すことから始まった。計画で作成したカリキュラム内容の目的に合うものになるよう次の事に取り組んだ。

6 「えびの学」(探究の基礎)

①えびの学～」Cフォーラムと地域実習を柱とした取り組み～

年度当初から計画変更を余儀なくされたものの以下のように年間を通して実践した。探究的な学びはもちろんキャリア教育の要素を入れるなどの修正を加えながら取り組んだ。

1 学期	適正診断 地域の職業を知る 飯野高校での活動について知る 未来予想図づくり
2 学期	地域実習に向けて ・問を見つける ・情報を収集する 地域実習 ・実際の現場から問を見つけ情報を整理分析する 実習成果発表会 ・論理的に考え、表現する→プレゼンの作成
3 学期	地域の未来・自分のミライを考える ・問を見つける→テーマの設定・情報の整理分析

総合的な探究の時間を代替する学校設定科目で、1年生 79 名が対象である。内容としては、2 年時以降の探究活動にスムーズに移行できるよう地域で探究の基礎を学ぶということをコンセプトに「地域課題を考える」「問を立てること」「情報収集」の方法を 1 学期の計画を変更し、地域実習による実践を通して学ぶ機会とした。

②えびの青年会議所フォーラム（7月）

この取り組みは、地域で未来への意志をもって活動している 30～40 代の事業者と高校生が交流することで、「高校生が地域を知る」「地域でもできる」ことを実感してもらうことを目的にえびの青年会議所フォーラムとして開催している。当日は、宮崎大学地域資源学部を卒業し市内に勤務する岡園和也氏（卒業生）の講話、地元事業者とのクロストークを通して、この先に取り組む地域活動に向けた理解や地元にいながらも持っていなかった視点を養うことができた。また、事後学習では将来の自分についても考える機会をつくりキャリア教育の要素を入れたものとした。

青年会議所フォーラム事後学習の授業内容

使用する教材
・進路ファイル・青年会議所フォーラム感想文・事後指導ワークシート（My Will List）
本時の目標
青年会議所フォーラムを終えて、これから取り組みたいことや挑戦してみたいことを書き出し、今後の探究活動におけるテーマを見つける準備を行う。

時間	指導内容
10分	青年会議所フォーラムの感想の返却を行い、振り返りを行わせる。自分が書いた感想を再度読ませ、その感想を4～5名のグループで共有させる。1人30秒程度で感想を言う。また、グループで共有させる前に全体に、どのようなことを感じたか、問いかけても良い。
5分	本時の学習目標を確認する。 <学習目標> My Will List で自分の取り組みたいこと、挑戦したいことを見つけよう。 補助資料の探究テーマを探す2つの輪と今後どのように探究テーマを見つけていけばよいか、説明する。
10分	My Will List の取り組み方について説明し、やってみたいこと、取り組みたいこと、挑戦してみたいことを何でもいいので、たくさん書き出させる。この際間違った答えはないので、たくさん書き出すよう指示する。
10分	My Will List に書いたことを共有する。書いたプリントを生徒同士で交換し、4～5名を目安にコメントを記入させると良い。この際、否定的な表現は使わず、書かれた相手が嬉しくなるような前向きなコメントを書くように伝える。
15分	My Will List に書いたものの中から2つのキーワードを選び、なぜ、そのキーワードを選んだのか、記入させる。記入が終わったら、4～5名のグループで共有をさせる。(自分の考えをアウトプットさせることが目的です。)

③地域実習（9月～11月）

2学期は、10月に実施する3日間の地域実習を柱とした探究の基礎を学ぶ機会に位置付けている。生徒たちは事前学習～振り返りまで探究のサイクルを体験し次年度につなげるプログラムにすることができた。

月	日	曜日	内容・備考
9	9	水	最初の15～20分間で希望調査を行う。
	15	火	生徒の希望調査を元に、生徒の配属先を検討。(学年会)
	16	水	事前指導① 全体説明、しおりの配布、各グループで活動
	23	水	事前指導② 各グループで活動、事業所の調べ学習、目標設定
	30	水	事前指導③ 事業所への事前確認電話の練習
10月16日(金)までを目安に電話をさせる			
10	14	水	事前指導④ 外部講師によるマナー講座
	27	火	事前指導⑤ <LHRをえびの学に振替>

			学年全体で注意事項の確認等
10月28日(水)～30日(金) 地域実習実施			
11	2	月	朝の HR でしおりを回収し、担当の先生でチェック
11日(水)までに未記入等ある場合は、担当の先生で指導をする			
	11	水	事後指導① 全体指導、各グループで報告、お礼状の書き方指導
	18	水	事後指導② お礼状の清書、発表会に向けた準備
12	2	水	事後指導③ 発表会に向けた準備
	9	水	全体発表会①
	16	水	全体発表会②、地域実習まとめ



地域実習の様子

地域実習はもともとインターンシップであったが、探究的な要素も入れた地域実習へと変化させている。単に事業所での実習という位置づけでなく地域を様々な角度からみる3日間にして、問を持たせることで探究のベースを学ぶ機会としている。このこともあり実習の成果発表では、単に事業所体験でなく、地域から学んだ内容も目立った。



発表会の様子

7 地域貢献活動

地域貢献活動は、1年間の地域実習を柱に取り組みながら実習先でのプロジェクトを実践するカリキュラムとなっている。今年度は実習の中から設定したテーマを実現するために企画書の作成、提案、実践に向けた取り組みを行った。

2年													3年										
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
準備	出前講座																						
実践活動・テーマ活動（週2時間1年間）																							
リフレクション（振り返り）・個人レポート作成																							
進路実現																							

①全体計画

学校設定科目で、普通科総合コース2・3年生52名が対象で行っている。休校による計画変更で「えびの市を考える」をテーマ別講話の内容を短縮したが、7月の実習準備を経て予定通り「地域実習」（2年9月～3年7月）を実践することができた。

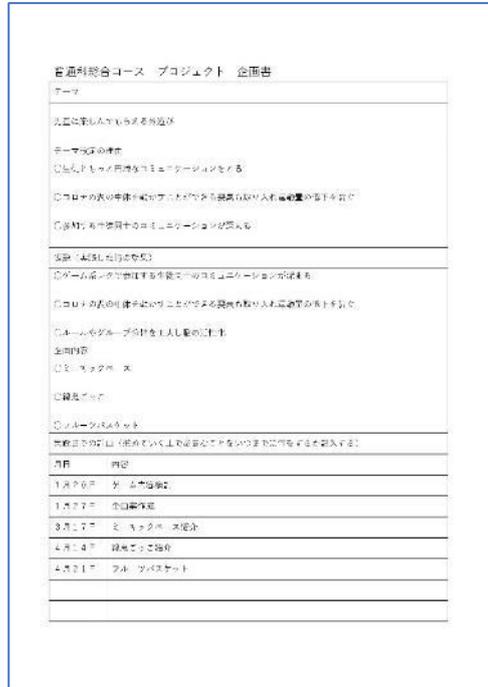
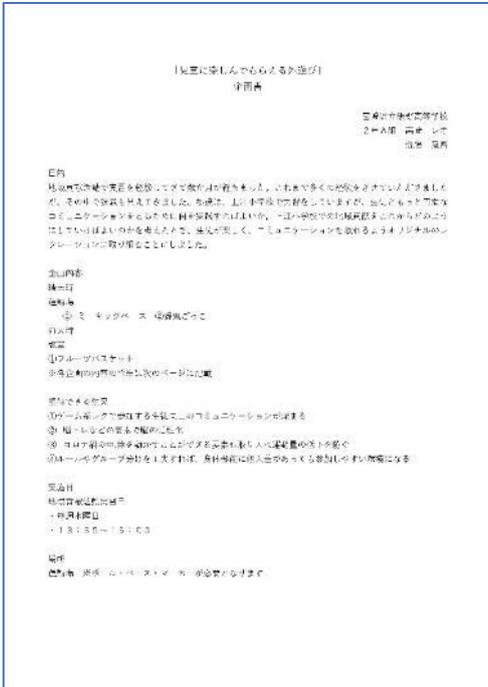
年	月	実施項目
2	6	えびの市を考える①～② ・市役所出前講座による対話型研修
	7	地域実習に向けて→テーマ設定
	9	地域実習①～⑱
3	3	グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）
	6	地域実習⑳～㉓
	7	グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）
	9	地域実習成果レポート作成 発表プレゼン作成
	1	グローバル学習成果発表会企画会議
2	グローバル学習成果発表会	

②【連携事業所（実習施設）】えびの市立飯野小学校、社会福祉法人慶和会、医療法人武雄会、株式会社エコープみやぎ、えびの市民図書館、JAえびの市、道の駅えびの、えびの市立上江小中学校

約1年間の実習中に考えた課題テーマの解決に向けた実践を行った（グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）※繰り返す）。実習終了後は、活動全体の個人レポートの作成、発表会に向けたプレゼン資料やポスター作成を行い、グローバル学習成果発表会の実行委員会を組織して企画・運営を行った。

③企画・実践

実習の中では、企画書の作成、実践を行い探究のサイクルを回していく取り組みを今年度は強化した。実践テーマを決定したらテーマに即した具体的な計画を立てていく。その際、統一様式の企画書づくりを同時に進めていき、企画書を完成させると具体的な実践の提案を各事業所で行った。



ここでは以下の内容を入れるようになっている。

目的（テーマ設定の理由）

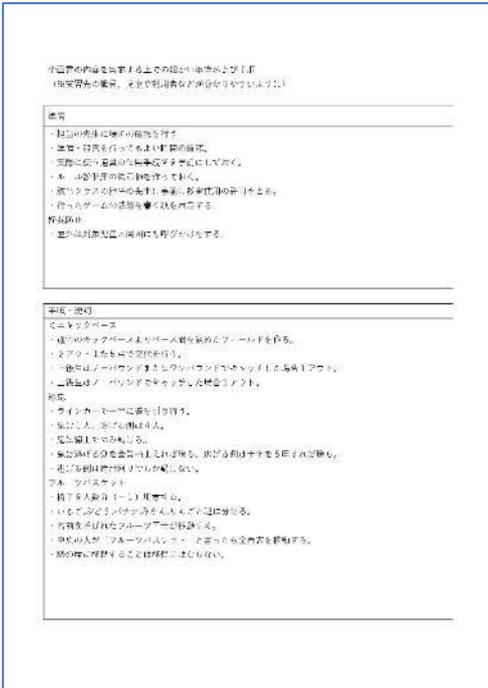
企画内容

仮説（期待できる効果）

実践までの計画（実施日、場所など）

企画書の内容を実施する上での細かい準備および手順

これは、体験の中から探究していく方法を学んでいくことものである。取り組みの様子からも実習の経験が活かされたものとなり、実習報告書を活用したりグループ内でアイデアを出し合いながら主体的な活動となっていた。



④実践

週2時間の実習においては例年、指示されたことに取り組むだけで1年を終える生徒も少なくない。そこで、企画書を用いてテーマに即した課題解決策や改善に向けた取り組みを実践することにより「自ら考え行動する力」を身につける。また、事業所で内容のプレゼンを行い企画実現に向けた活動や実践を繰り返すことにより探究のサイクルを回していく。

地域貢献活動 活動テーマ

- ・ 地域の人が使いやすい店舗 (A コープ)



- ・ 健康に育つ保育の環境づくり (飯野保育園)

- ・ 利用者のストレス軽減 (グループホームあおい)



- ・ 地域の人が親しみやすい図書館 (えびの市民図書館)

- ・ えびのの特産品を広めるために (道の駅えびの)



- ・ レクリエーションで利用者を笑顔に! (ほうよう)

- ・ 未来を担う児童が育つ環境づくり (上江小学校)



- ・ 子どもたちを導く環境づくり (第二和光幼稚園)

- ・ 「あそび」から学ぶ環境づくり (飯野小学校)



⑤実習中止時の探究、課外活動への発展

また今年度は、コロナ禍というイレギュラーな状況で実習自体が直前に中止となる施設も出てきた。しかし、そこで活動が止まるのではなく実習が休業となった生徒たちが自主的に企画し実践されたのが人吉豪雨災害支援プロジェクトである。この企画は、昨年7月に豪雨により深刻な被害をうけた熊本県人吉市の子どもたちを支援しようと、えびの市内での街頭募金を行うというものであった。実践は人員配置や場所の選定（許可取り）などすべて課外活動として生徒主体で行われた。実績としても3日間で15万円の寄付を集めて被災地でこどもの支援をしている団体へ直接届けるなど企画から実践まで日頃の実習活動による取り組みの成果があらわれた。



LCA 幼稚園プロジェクト〜子どもたちを導く環境づくり

普通科総合コース3年 横田真穂

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている第二和光幼稚園は、三歳から五歳までの園児がもも組さん、うめ組さん、まつ組さんの三つの組に分かれて過ごしている。また、園はお寺の敷地内にあり、仏教の教えに従って園児を育てている。園児の数は少ないが、どの園児も活発である。実習においては、掃除やレクリエーション、読み聞かせや着替えの手伝い、展示物の作成などを行っている。園児たちを見ていると、先生の言うことをきちんと聞いている一方、何でもかんでも触ったり、その場に寝そべったりしている様子が目撃されることから「子どもたちを導く環境づくり」というテーマで、実習内容の掃除に視点を置き、各教室やホールを中心に綺麗にし、園児が楽しく過ごせたらと考えてこのテーマを設定するに至った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

- ・園児とふれあい
- ・掃除
- ・読み聞かせ
- ・着替えの手伝い
- ・草取り
- ・先生の補助

活動での成果

- ・自ら動くことができるようになり、与えられた時間でより質の良い活動にしようと考えて動くことができるようになった。
- ・子供のことが改めて好きになった。

活動で困ったこと

最初の方は何をすればいいのか分からなかったこと。

自分に足りないこと

- ：目を見て話す
- ：挙動不審にならない
- ：周りをよく見る

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること
自ら動くことができること。

実習前	実習後
苦手な人はあまりかかわらない	小さな子どもや大学の実習生の人が苦手だったけれど接することで苦手な人でも仕事だからとわりきってしっかり話すようになった。そうすることで、いいところがたくさん見えてきた
掃除が苦手だった	永遠に掃除をしていたので掃除ができるようになった。
目を見て話せない。	読み聞かせをするときに目を見て、また、手の動きや話し方など練習したおかげで、感情をしっかりと伝えられるようになった。
今の活動に対して地域の方々の思いが分からない。	園児の保護者の方々や、行きや帰りにすれ違う地域の方々が「がんばってね」など様々な反応を感じることができた。
積極性がない	自分の作業が終わってもほかの仕事をしように思うようになった。

活動全体での学び

私がこの活動を通して学んだことは、仲の良い人でも、苦手な人でもしっかりとコミュニケーションをとれるようになったことです。苦手な人でも会話をしていくうちにその地との良いところが見れるようになりました。また、私がこの活動を通して将来役にたつと思ったことは、掃除を頻繁に行うということです。

周りをきれいにしておくことで、ほしいものがすぐに見つかり作業がはかどりました。

園児たちとのふれあい

写真のように一緒に絵本を読むこともあったが、外やホールで遊ぶこともあった。子供たちにとって一番大切に楽しい時間だと感じた。



2、清掃活動（床）

園児が裸足で走り回ったり、寝たりするので、たった2時間の活動の中でも、廊下 ホール ベランダは少なくとも一回教室は少なくとも二回は帚ではわきました。

実習期間中のモニタリングツール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
自己満足	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域貢献	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○

※自己満足度は、自分で設定した目標を達成できたかどうか、できた：○ もう少し：△ できなかった：× で記入する。

地域貢献

- ① 子どもたちと遊び先生たちに時間ができたと思う。
- ② 道路付近の草取りをして、綺麗にできた。
- ③ 子どもの成長に関わることができた。
- ④ 子どもの周りの環境を綺麗に保つことができた。
- ⑤ 地域の子どもに関心を持つようになった。

地域に貢献するということ

実習を終え、貢献できたことがあるかと考えると分からないけれど、実習の時に行っていた掃除などは地域の園児の環境を綺麗に保つことができたということではないかと思えます。このように誰かのためを思って行動したことは地域に貢献したことだと思います。

今後の地域との関わり

私は地元を離れ保育のことを学びます。短大卒業後は地元に戻ってきて、学んだことを生かした保育をしたいと思っています。また、短大の二年間で地元のことを考えて保育の課題を解決できるようにしたいです。

LCA

飯野小学校～児童一人一人にENJOY & SMILEを

普通科総合コース3年 田口 由妃楓

テーマ設定の理由

私たちが活動している地域貢献活動は、普通科総合コースの学校設定科目で独自のカリキュラムで行っている。これは、地域における学習を学びのきっかけと考え、自らのキャリアや地域の未来について考えるものである。また、社会性やコミュニケーション能力を身につけ、学ぶ意義について考える機会、実際に市政や市内の活動に関わっている講師を招聘し、学びを深めるなど多様な視点で学べるプログラムとなっている。特に1年間という長期にわたる地域実習では、実習先において多様な人々との交流や業務など校内ではできない経験を積み、地域社会について多くの事を学んでいる。本稿では、1年にわたる地域実習の中で定めたテーマをもとに実践から得られたことについて紹介する。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

- 昼休み（児童と交流し仲を深める ○授業の手伝い（6年生 体育・音楽 5年生 理科・英会話・家庭科）
- 図書館の整理 ○下校指導

活動での成果

主にコミュニケーション能力が身についたと思います。特に児童は疑問に思ったことを聞くということ、想像力が豊かなのでどうしたら納得いくかなど分かりやすいかなど考えるので説明する力も身についたと思います。

活動で困ったこと

最初の方は何をすればいいのか分からなかったこと。

自分に足りないこと

このLCA活動を通して積極的に行動ができるようになったとは思いますが、これから生活していくうえでもっと積極性が必要になってくるのかなと思うのでそこをしっかりとしていきたいと思っています。

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること

自分で考えて行動するということが、笑顔でいることが増えたおかげで学校生活での楽しいと思える時間が増えましたし、生かしているなど感じることができています。

実習前の自分

実習後の自分

相談するということをあまりしなかった

児童がどうしたら喜んで遊べるかというのでレクリエーションを計画し、先生方と事前に話し合いをすることで相談することが身についた。

正しい言葉の使い方

先生方と話して自分がおかしい言葉遣いをしていないか失礼なことを言っていないかの活動を通して学ぶことができた。

授業では、まず自己紹介をしてから一緒に授業を受けたり、実際に生徒に教えたりしました。主に参加した授業は、英会話、算数、音楽、体育です。



授業の次に主に行ったのが図書館の整理整頓です。飯野小学校に限らず学校は本がとても多いので、正しい場所に直すということがとても大変でした。また、元の場所に戻すだけでなく学年ごとにどんな本を読むかと考えてそれを分けるという作業も大変でした。

実習期間中のモニタリングツール

氏名	指導期間 令和元年9月～令和2年7月											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
モニタリング	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自己啓発活動（ボランティア活動）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
地域貢献	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
学び	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
目標達成状況は、自分で設定した目標を達成できたかどうか、できた：○ もう少し：△ できなかった：× で記入する。												

地域貢献

- ① 普段話を聞けないような話を聞いたこと
- ② 小学生と交流できたこと
- ③ 小学校という普段決まった人しか入れないような所で体験活動できたこと
- ④ 自分のことや小学校の先生、小学生に話しかけたり話しかけてきてくれた時
- ⑤ 清掃をしたとき

地域に貢献するという

実習を終え、貢献できたことがあるかと考えると分からないけれど、実習の時にやってた掃除などは地域の園児の環境を綺麗に保つことができたということではないかと思っています。このように誰かのために思って行動したことは地域に貢献したことだと思います。

今後の地域との関わり

私は地元を離れ保育のことを学びます。短大卒業後は地元に戻ってきて、学んだことを生かした保育をしたいと思っています。また、短大の二年間で地元のことを考えて保育の課題を解決できるようにしたいです。

LCA 道の駅プロジェクト

～より一層綺麗で買い物しやすい施設へ～

普通科総合コース3年 石原田凛

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている道の駅えびのは、県内の人だけでなく県外からの観光客など多くの人が利用する施設である。えびので採れた、野菜や果物や加工品を主に販売している。その他にも、お土産や工芸品、焼酎も販売されている。実習においては、袋詰めや品出し、施設内の掃除や窓ふきや道路沿いに置かれている旗の交換などである。品出しの際に、賞味期限などに注意しながら行っている。利用者の方に、楽しんでもらえるように、季節に合った物を入り口において、より一層買い物などが楽しめるように、従業員の方と一緒に展示物を作ったりする。「より一層綺麗な施設にして楽しく買い物ができる施設へ」というテーマで、これらを実践することによって県外からの観光客だけでなく、従業員や自分たちも気持ちよく活動することができるので、このテーマに至った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

- ・商品並べ・品出し・新聞切り
- ・プチプチ切り（購入された割れ物などを包む）
- ・商品シール貼り・封筒のり付け・メモ用紙作り
- ・賞味期限チェック
- ・レジ打ち・食器片づけ・食器拭き・掃除・旗かえ
- ・ゴミ拾い・クリスマスツリー作り
- ・カゴ、カート、ドアノブ消毒

活動での成果

- ・積極的に行動する力
- ・周りを見て行動する力
- ・時間を意識して行動する力
- ・コミュニケーション能力
- ・臨機応変に対応する力

活動で困ったこと

- ・距離が遠いから、行き帰りに時間がかかる。また、疲れる。

自分に足りないこと

- ・お客さんとのコミュニケーション能力。

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること

積極的に、係決めや、リーダーなどの役割に、立候補したり、自分から何か活動を行いたい、思うようになった。また、周りを見て、その場にあった行動ができるようになった。また、自分が決めたことをやり抜く気持ちも強くなった。

実習前

自分から動くことができなかった。

実習後

実習をしていくうちに、積極的に動く事が大切という事を知り学校生活でも積極的に動くようになった。
→委員長、副団長、オープンスクール実行委員

周りを見て行動していなかった。

周りを見て行動すると、自分が思っている以上に、やる事があるという事を感じ、周りを見て行動するようになった。
→委員長、副団長、オープンスクール実行委員

ボランティア活動をあまりしていなかった。

ボランティア活動は、貢献するだけでなく、自分にも学びが得られるという事を、LCA活動で感じた。そして、今まで以上にボランティア活動に参加するようになった。
→保育ボランティア、イベントSTAFF、オープンスクール実行委員

活動全体での学び

私は、積極的に自分で仕事を見つける事の大切さや、周りを見て臨機応変に対応することの大切さを学びました。積極的に自分から動くことによって、指示を出されてやっていた時には気付かなかった事にも気付くようになりました。また、臨機応変に対応することは普段の学校生活にも生かせるようになりました。

私は、今まで行ってきたLCA活動を夢である保育士の仕事に生かしたいと考えています。
例えば、周りを見て行動する力は、子供たちに怪我や事故が起きないようにすることに生かし、また、臨機応変に対応する力は、子供たちに何かあった場合落ち着いて適切に対応できるように生かしていきたいです。

①商品並べ

この活動は、ほぼ毎回行いました。商品が並んでいなくなった時に、それを並べ直した。また、商品の賞味期限や、品質に不備がないかなど注意しながら行いました。お客様からの、信頼を得るために、大切な事だと思った。



②掃除

店の掃除以外にも、事務所や調理場、駐車場などの掃除も行った。きれいに見えても、掃除をしていくと汚れがたくさんあった。だから、隅々まで丁寧に作業する事が大切だと思った。

③品出し

この活動もほぼ毎回行う活動の一つでした。賞味期限を見ながら、賞味期限が近いものを前や上に出すことを意識しながら行った。この時に、賞味期限切れの商品がないかも注意しながら行った。細かいところにも、目を向けながら作業する事が大切だと思った。



実習期間中のモニタリングツール

氏名	活動期間 令和元年9月～令和2年7月						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
石原田凛	○	○	○	○	○	○	○
自己満足度	○	○	○	○	○	○	○
地域貢献	○	○	○	○	○	○	○
ボランティア	○	○	○	○	○	○	○
コミュニケーション	○	○	○	○	○	○	○
リーダーシップ	○	○	○	○	○	○	○
自己肯定感	○	○	○	○	○	○	○
自己効力感	○	○	○	○	○	○	○
自己責任感	○	○	○	○	○	○	○
自己管理能力	○	○	○	○	○	○	○
自己学習力	○	○	○	○	○	○	○
自己成長力	○	○	○	○	○	○	○
自己実現力	○	○	○	○	○	○	○
自己満足度	○	○	○	○	○	○	○
自己効力感	○	○	○	○	○	○	○
自己責任感	○	○	○	○	○	○	○
自己管理能力	○	○	○	○	○	○	○
自己学習力	○	○	○	○	○	○	○
自己成長力	○	○	○	○	○	○	○
自己実現力	○	○	○	○	○	○	○

※目標達成度は、自分で設定した目標を達成できたかどうか、できた：○ もう少し：△ できなかった：× で記入する。

地域貢献

- ①カゴ・カート・ドアノブの消毒をして、感染症対策を行った。
- ②掃除をして清潔に使えるようにした。
- ③声をかけられたら、笑顔でハキハキと話してコミュニケーションを取った。
- ④商品並べをして見やすくした。
- ⑤賞味期限チェックをして食中毒予防を行った。

地域に貢献するということ

私は、地域に貢献することは、自分にも学びがあるという事を感じました。地域に貢献する活動を行うことによって、地域にじかに触れ、地域について色々なことを知ることができました。地域と私たちは、持ちつ持たれつだと思いました。だから、できる活動は積極的に参加して活動を行ってみたいです。

今後の地域との関わり

私は、このえびの市から離れますが、えびの市で高校から生活するようになって多くの事を学びました。だから、えびの市に帰ってきたときには、道の駅など地域貢献活動を思い出して、これから住む新たな場所でも、この活動を生かせるように頑張りたいと思います。

LCA 保育園プロジェクト〜園児がすてしやすい環境づくり〜

普通科総合コース3年 内村 未優

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている飯野保育園は地域に住む多くの子供たちが利用している保育園です。約100名の園児たちが多くの自然に触れ元気づく過ぎしています。私たちが、活動を通して学んだことは、コミュニケーション・自ら行動する力・周りを見る力の三つを学びました。保育園の仕事では、各行事の衣装作りや準備、月ごとに園児が作る作品準備や展示、他にも掃除やおやつ配膳などといった多くの仕事があります。これらの仕事は全て私たちが学んだ三つの力が必要になります。仕事の中でも、子供の安全面や体調を見ながら仕事を進めなければなりません。この際に最も重要になるのが周りを見る力です。また危険なことをしていたり、トイレに行きたそうな子がいた場合に注意したり連れていったりする時に自ら行動する力が必要です。そして保育園では、園児だけではなく勤務している先生方や保護者、外部からくる関係者など多くの人と関わるのでコミュニケーションも欠かせません。保育園での仕事では、この三つ以外にも集中力や効率よく仕事を進める力などが大切ですが、どの仕事にも欠かせないコミュニケーション・自ら行動する力・周りを見る力が最も重要なことだと思い「園児一人一人に目を配り、臨機応変に行動する。」というテーマに至りました。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

- ・月ごとの作品の準備・展示・月行事の準備
- ・清掃（トイレ、窓、ホールなど）
- ・園児の手伝い（寝かしつけ、布団たたみ、トイレ）
- ・おやつ配膳、片付け

活動での成果

- ・周りを見て効率よく行動する力が身についた。
- ・場に応じた挨拶ができるようになった。
- ・責任感をもって行動するようになった。

活動で困ったこと

言ってもきかない園児にはどのように注意して動かせば良いのかが分からず困った。

自分に足りないこと

- ・人をまとめきれないこと。
- ・恥ずかしがること。

LCAで習得したことで日頃の生活にかかされていること

- ・場に応じた挨拶ができる。
- ・気を使って行動ができる。
- ・小さい子への関わり方が分かった。

実習前	実習後
状況に応じた挨拶ができてなかった。	保育所に行ったら必ず園内にいる全ての先生方に挨拶をした。→その場の状況に応じた声の大きさを挨拶できるようになった。
ボランティア活動に参加していなかった。	何事も集中力を切らさず集中して取り組めるようになった。
準備が遅かった。	保育所で月ごとの作品の準備や各行事の準備などをしていくにあたり、早めの行動が大事なことがわかった。
周りを見る力がついた。	園内で仕事をしながら周りを見ていくことにより周囲に気を配ることができるようになった。仕事がない時も仕事を見つけることができるようになった。→文化祭の小道具準備の手伝いなど自らできた。

活動全体での学び

私は、将来保育士になりたいと思っていてLCA先は飯野保育園を選択しました。毎週水曜日に実際に体験していくことにより、保育士の仕事内容や大変さがわかりました。私がこの活動を通して学んだことは、保育士という仕事の大変さです。実際に体験して沢山のことを学びました。作業をしながら周囲に目を配ることの大変さや、安全面に責任をもって対応していくことの大切さを学びました。また保育士は、園児や保護者と接するだけではなく、業者の方とも接していくのでコミュニケーション能力が必要になっていくことも学びました。直接保育士の仕事を見て体験していくことによって、たくさんの「気づき」がありました。こどもたちが安全に遊ぶことが出来るような遊びを考えたり、牛乳パックやダンボールといった、資源ごみになるようなものを使いおもちゃを作ったりと発想力も必要になっていくことが分かりました。さらに、段差をなくしたり、戸先にクッション材を貼ったりするなどといった、工夫が施設内のいろいろなところで見ることができました。これらの学びは進学先で行われる実習などに繋ぐことが出来るものだと思います。またこれらの経験は、面接などで大きなアピールポイントになっています。



月行事の準備

園児が運動会・お遊戯会が楽しめるように、用具準備をした。運動会準備では、プログラム作りや競技に使うものを丁寧に作った。お遊戯会準備では、劇に使う小物の作成や衣装のほつれがないかの点検などをした。また七夕やひなまつりの準備では、四季が感じ取れやすい様に色など工夫して作った。どうすればかわいく見やすくなるのかを考えてデザインしている先生を見て想像力が重要になることが分かった。



おやつ配膳・片付け

特に衛生面に気を付けた。当番さんに配るものを教えたり、配膳されていないところを教えたりした。またお菓子の袋を開けられない子の手伝いもできた。片付けでは、ゴミの回収、テーブル拭きなどをした。観察力や変化に気づくことが大切だと分かった。

実習期間中のモニタリングツール

氏名	内村 未優		活動期間 令和元年9月～令和2年7月								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
① 実習スケジュール											
② 自分の実習スケジュール	9/10 清掃	9/17 清掃	9/24 清掃	10/1 清掃	10/8 清掃	10/15 清掃	10/22 清掃	10/29 清掃	11/5 清掃	11/12 清掃	11/19 清掃
③ 業務内容	清掃、おやつ配膳										
④ 学び	周りをよく見て行動するようになった。										
目標達成度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※目標達成度は、自分で設定した目標を達成できたかどうか、できた：○ もう少し：△ できなかった：× で記入する。

地域貢献

- ① 感染予防を園児にさせることができた。
- ② 地域の子供と関わりを持つことができた。
- ③ お手伝いにより先生たちの手間をばはけた。
- ④ トイレや窓掃除などにより園内の清潔感を保つことができた。
- ⑤ 各行事の手伝いにより子供たちが喜ぶようなものを作れた。

地域に貢献すること

地域に貢献することは楽しいことだと分かりました。私にとっても地域の方にとってもよい活動だと思います。実習中には保育士である大人たちに大学での話を聞くことができ、進路についても深く考えることができました。また保育士の裏仕事や大変さなど知れたのでよかったです。さらに夏休みに保育園に行き実習するなど自ら行動できたので良かったです。

今後の地域との関わり

私の進路先は県外ですが就職時には県内で働くという考えもあります。もし県内で働くことになったら、宮崎県に貢献できるような活動を保育士として行っていきたいです。また、県外で働くとなった場合でも同じように貢献できるような活動をしていきたいです。

LCA ほうよう～利用者がすごしやすい環境づくり～

普通科総合コース3年 児玉 未来

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っているほうようには、認知症の方や足が悪い方、耳が悪い方などたくさんの利用者さんがいます。色々な利用者さんがいるなかで、どのようにして接するのかということを考えてコミュニケーションをとるのがすごく難しい。利用者さんと話すときは、大きい声で聞こえるように話すようしていた。そして私たちが行っていた仕事は、利用者さんとコミュニケーションをとる、椅子並べ、ふきん干し、おやつ配り、クリスマスの飾り作り、布団たたみ、リハビリ体操、ゲームの手伝い、ベッドメイキングをしていた。私は利用者さんとのコミュニケーションが一番大切だと思った。コミュニケーションをとるには、自分から話しかけることが必要である。何に対しても自分から進んですることが大切だと思った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

ベッドメイキング、手すりの消毒、おやつ・お茶配り、利用者さんとのコミュニケーション、ゲームの手伝い、リハビリ体操、おしぼりを絞る、布団たたみ、入浴介助の手伝い、タオル片付け、イス並べ、ふきん干し

活動での成果

・最初のころはコミュニケーションをとることができていなかったが、慣れていくうちに自分から話しかけるようになった。
・自分から行動することを心掛けていたら、少しだが行動できるようになった。
・相手に聞こえる声で話せるようになった。

活動で困ったこと

利用者さんが言っていることが分からないことがあった。
・自分が言っていることが伝わらないことがあった。

自分に足りないこと

自分の意見を相手に伝える。コミュニケーション
・作業を早く終わらせる

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること
作業を行うときに時間内に終わらせられるよう一生懸命頑張っている。コミュニケーションをとるために自分から話しかける努力をしている。相手に聞こえる声で話すようにしている。

リハビリ体操

この活動では、高齢者の方々でもできる体操や音楽に合わせてリズムをとったりした。頭の体操をしたり指の体操をして認知症にならないようにするためだと聞いた。体操をすることで利用者さんが少しでも健康でいられるようにしているのだと感じた。



この活動では、年行事を行うための準備や手伝いをした。クリスマスツリーの飾りつけをしたり、クリスマスの飾りを作ったりした。年行事が来たら職員の方々いろいろと飾りを作ったり歌を歌ったり芸をしていて利用者さんを楽しませようとしているのがすごく伝わった。

実習期間中のモニタリングツール

氏名	活動期間 令和元年9月～令和2年7月											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
コミュニケーションがとれていなかった。												
作業を行うスピードが遅かった。												
自分から行動できてなかった。												
相手に聞こえる声で話せていなかった。												
分からないところを聞いていなかった。												
目標達成度	△	○	×	△	△	△				△		△

実習前	実習後
コミュニケーションがとれていなかった。	自分から利用者さんに話しかけることができるようになった。
作業を行うスピードが遅かった。	時間内に作業を終わらせられるようになった。
自分から行動できてなかった。	分からないところは自分から聞くようになった。
相手に聞こえる声で話せていなかった。	大きな声で話すよう意識して話せるようになった。
分からないところを聞いていなかった。	授業で分からないところは自分から聞くようになった。

活動全体での学び

私がこの活動を通して学んだことはコミュニケーションの大切さです。利用者さんと接するために自分から話しかけてコミュニケーションをとっていくのがすごく大事だと思いました。最初のころはなかなか自分から話しかけることができず戸惑っていることが多くありました。しかし、利用者の方から話しかけてくださり、自分も話しかけられるようにと心がけていたらいつの間にか自分から話しかけることができるようになっていました。

地域貢献

- ① 子どもたちと遊び先生たちに時間ができたと思う。
- ② 道路付近の草取りをして、綺麗にできた。
- ③ 子どもの成長に関わることができた。
- ④ 子どもの周りの環境を綺麗に保つことができた。
- ⑤ 地域の子どもの関心を持つようになった。

地域に貢献すること

実習を終え、貢献できたことがあるかと考えると分からないけど、実習の時にしていた掃除などは地域の園児の環境を綺麗に保つことができたということではないかと思っています。このように誰かのためを思って行動したことは地域に貢献したことだと思います。

今後の地域との関わり

私は地元を離れ保育のことを学びます。短大卒業後は地元に戻ってきて、学んだことを生かした保育をしたいと思っています。また、短大の二年間で地元のことを考えて保育の課題を解決できるようにしたいです。